

劔岳

【日程】 2017年7月28日～7月30日（前夜発）

【エリア】 北アルプス北部

【形態】 夏山登山

【メンバー】 石田・太田（彰）・八尾・高岡・松本・中川・鈴木・倉橋・片山・宮本・池田

【報告】 池田

《ルート／タイム》

7月27日

奈良南部・北部より集合～立山駐車場（北部組11時頃・南部組名古屋経由で1時半頃）

7月28日

立山駐車場(7:30)発～室堂（9:00）～雷鳥沢～劔御前経由劔沢着・テント設営（13:30）

7月29日

起床（3:00）～出発（4:30）～劔山荘（5:00）～劔山頂（9:00）～劔沢山荘（13:00）～テント場（14:00）
着

7月30日

テント場（5:30）～大日岳コース経由雷鳥沢（8:40）～室堂（10:00）～入浴後・帰奈良

《報告》

7月28日

早朝から小雨ながら雨模様参加者の気分が萎えてくる

6時の出発時間を様子見しながら計画変更して別の場所に行くか決行するか決めかねていたが結局天候回復の見込みで出発時間を遅らせて7時半のケーブルで室堂に向け出発

室堂はガスのなかったが途中晴れ間もみえて決行してよかったと安堵した。

室堂は観光客でいっぱい！久しぶりのテン泊で観光客とは恰好が違和感いっぱい

今回テン泊で荷物は重かったが途中雪も多く残っていてこの冬の雪の多さがうかがえる。

劔御前から劔山荘へは雪多くアイゼン必携の案内があるが今回は劔沢テント場なので看板を横目に見ながらテン場に向かう。

全員無事劔御前を越えて劔沢テン場に到着。

天候不順のせいか予想に反してテン場のテントは少い。



立山駅（ここでは雨装備）



室堂では晴れ間が



地獄谷では匂う



みくりが池も雪多い

テント設営も済ませて今日はあと食事にあとは寝るだけ（その前に乾杯）



バイオトイレ（結構きれい）



一時雲が切れて前劔・劔本峰が望めた（明日に期待）

7月29日

夜中から断続的に雨がテントに打ち付けて今回は断念か？と気持ちがよぎりとりあえず予定の3時起床！

夜中の2時頃「天の川見える～！」とS女子の声で期待感アップ(^_-)-☆

起床後スマホで雲の動きを見ながら雨が降らない時間帯がありそうなので少し遅れて決行を決め4時半頃テン場を出発

とりあえず劔山荘で様子見をしてこの先の行程を決定することにした劔山荘までは残っている雪渓を落石と滑落に注意しながら目指す！で小雨模様となるが大崩れしないとの予想で歩を進めることにする（ここでセルフビレー用スリング等の最終チェック）

ここから一服劔・前劔を経由して劔本峰を目指す！

一服劔を下ると鎖場が出てきたが鎖場より手前の手すりのない橋（左右とも切れている）に緊張する



この橋緊張しました

最盛期の劔は登山客の多さと鎖場の連続で渋滞が発生して時間がかかると思っていたが今回は天候の影響があったのか結構スムーズに進んだ

途中雷鳥も姿を見せて登頂のテンションが上がる



雷鳥お出迎え



いくつもの鎖場をクリアして無事頂上に到着！





余裕のメンバー

頂上はガスがかかって残念ながら視界はなく絶景もなし(T_T)
頂上は思っていたより広がった（槍の穂先より広く感じた）



参加者全員頂上にて

無事登頂した後はカニの横バイ等の下りが待っている所以慎重に下山を開始し！
小雨が降ったり止んだりだったが滑ることもなく、またガスが出ていたので下が見えることもなく横バイを通過したがやはり登り違って下りは緊張感が増す。
下りは登りとコースが異なっていくの間にか前劔を通過し緊張した橋を通過することもなく無事横バイと垂直の階段をクリアし剣山荘到着し全員安堵感でいっぱい
あとは落石に注意して（メンバーが足に直撃したが軽症）剣山荘までの行程と雪渓をクリアすればお宿（テント）が待っている



下山後剣山荘で余裕の女性陣
あとは劔沢小屋で今夜のビールを購入してお宿（テント）に帰るだけ



下山後テん場の警察詰所前で（カメラマンは警官にお願い）



テん場着後今日の健闘と無事下山を祝って乾杯～！（あとは飲んで寝るだけ）
夕食を早々に済ませて翌日の下山に向けて前日同様早々に就寝

7月30日

予定より早く4時半頃起床したが相変わらずの曇天で剣は顔を見せず
早々に朝食を済ませてテントを撤収し下山開始
剣御前から雲も切れ雷鳥沢・地獄谷・室堂が望める



剣御前から室堂方面を望む

ここから大日方面を經由して室堂に向かうがこのコースも雪渓が多く残っていて雪の多さを改めて実感する

雷鳥沢を經由して無事10時過ぎに室堂に到着し10時40分のバスとケーブルカーを乗り継いで無事立山に到着し温泉で3日間の汚れと疲れと空腹を満たして奈良に向かう

登山道は雪は多いが結構高山植物が咲いていて夏山の雰囲気満喫しました、展望は満足いかなかったが初めての剣に満足のいく山行だった。



